

黙示録の教会跡をたどって

(黙示録2・1〜7)

教会の皆さま方の祈りに支えられて、2月13日より21日まで、トルコ研修ツアーに行つてまいりました。黙示録に記されている七つの教会跡をたどることができましたので、報告と感想を兼ねて語らせていただきます。

一、歴史が動く理由

トルコ、すなわち小アジアとかアナトリアと言われる地域の歴史が動いて行つた理由に、幾つかの要素があることを教えられました。

第一は、強国が小アジアと言われる地域を支配しようとした人間の性(さが)です。トルコは、西はヨーロッパ、東はアジアにつながる重要な地域です。こうして、ペルシア帝国が支配し、その後アレキサンダー大王によってギリシア化され、その後ローマが支配するようになりしました。

第二は、トルコが昔から地震が多い地域であったことです。繁栄していた都市が地震によって壊れてしまう。それでも、ラオデイキアのように裕福な町は自力で復興しました。ところが、壊滅的な被害をこうむると別の都市に移住せざるを得なくなりました。

第三は、海岸線の後退により貿易が

できなくなり、経済が衰退していったことでした。

第四は、疫病です。マラリアやペストによって多くの死人が出ると、今までの流れが変わります。

二、遺跡を訪ねて

①エペソの教会跡

エペソは海岸線の後退と地震によって、やがて衰えていくという道をたどりました。エペソは発掘が進むことによって、町の広大さが明らかになっていきます。これがメインストーリーです。この坂を下ると大きな図書館があり、その横にはアル

アテミスの女神像がありました。もちろん、レプリカです。パウロが伝道した時代、エペソは活気に満ちていました。当然、黙示録に登場するエペソの教会も、

活気のある町の中で活動が続けられていました。そのエペソの教会に向けて御霊が語っています。(黙示録2・2)

5a わたしは、あなたの行い、あなたの労



苦と忍耐を知っている。また、あなたが悪者たちに我慢がならず、使徒と自称しているが実はそうでない者たちを試して、彼らを偽り者だと見抜いたことも知っている。あなたはよく忍耐して、わたしの名のために耐え忍び、疲れ果てなかつた。けれども、あなたには責めるべきことがある。あなたは初めの愛から離れたしまった。だから、どこから落ちたのか思い起こし、悔い改めて初めの行いをしなさい。と。

②スミルナの教会跡

ここは、スミルナの教会、すなわちイエスキリストを信じる集まりがあつた町の跡地です。現在はイズミールという大都会の中にあります。ローマ時代の遺跡は残っているのですが、1世紀の時代の様子は想像することは難しいです。



③ペルガモンの教会跡

こちらはペルガモンの教会、すなわちイエスキリストを信じる集まりがあつた町の跡地です。非常に広大でした。そこには、アス



クレピオンという医療施設があり、写真に写っている山の上には神殿があり

ました。そこにも登りました。

こういう文化の中で、福音が広がって行きました。

た。ペルガモンの教会について、黙示録は次のように語っています。(黙示録2・13) わたしは、あなたが住んでいるところを知っている。そこにはサタンの王座がある。しかしあなたは、わたしの名を堅く保つて、わたしの確かな証人アンティパスが、サタンに住むあなたがたのところへ殺されたときさえ、わたしに対する信仰を捨てなかつた。と。

④ティアテイラの教会跡

ティアテイラの教会があつた場所にも行きました。ティアテイラと言えば、紫布の商人リディアの出身地です。現在のアクサヒルという都会の中にあり、発掘もあまり進んでいませんでした。



⑤サルデイスの教会跡

こちらはサルデイスの教会、すなわちイエスキリストを信じる集まりがあつた町の跡地です。今は廢墟にな



住んでおらず、きれいな場所です。そのサルデイスの教会に対して次のようなメッセージが語られています。《黙示録3・1c》2わたしはあなたの行いを知っている。あなたは、生きているとは名ばかりで、実は死んでいる。目を覚まし、死にかけている残りの者たちを力づけなさい。わたしは、あなたの行いがわたしの神の御前に完了したとは見ていない。と。

⑥ フィラデルフィアの教会跡

有名なフィラデルフィアの教会ですが、現在残っているのは6世紀に建てられた教会の遺跡です。柱だけが残っています。黙示録には次のように書かれています。《黙示録3・8》わたしはあなたの行いを知っている。見よ。わたしは、だれも閉じることができない門を、あなたの前に開いておいた。あなたには少しばかりの力があって、わたしのことばを守り、わたしの名を否まなかったからである。と。しかし今はこの場所に教会、すなわちイエス・キリストを信じる群れはありません。



⑦ ラオディキアの教会跡

最後は、熱くもなく冷たくもないと

言われた、ラオディキアの教会、すなわちイエス・キリストを信じ



る群れです。こちらは、今は廃墟となっており、発掘が進むことにより、広大な裕福な町であったことが分かっています。ラオディキアにあった教会に対して、次のように語られています。《黙示録3・17》あなたは、自分は富んでいる、豊かになった、足りないものは何もないと言っているが、実はみじめで、哀れで、貧しくて、盲目で、裸であることが分かっている。と。ですが、その後には語られている主の言葉はすばらしいです。教会の方がよく、存じの言葉です。《黙示録3・19》20わたしは愛する者をみな、叱ったり懲らしめたりする。だから熱心になって悔い改めなさい。見よ、わたしは戸の外に立ってたたいている。だれでも、わたしの声を聞いて戸を開けるなら、わたしはその人のところに入るとも彼とともに食事をし、彼もわたしとともに食事をする。と、主は語られています。愛する者を叱られるのは、主イエス・キリストです。

三、おわりに

黙示録に書かれている七つの教会、すなわちイエス・キリストを信じる者

たちが集まった場所は、いずれも今は遺跡となっています。ですが、神は、すなわち父・子・聖霊として御自身を現しておられる神は、当時の教会にたしかに彼らに語られました。そして、時代と文化を超えて、今ここに居る私たちにも語っておられます。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたもあなたの家族も救われます」と。私たちは、御霊が諸教会に語られている言葉に聴き続けようではありませんか。